

## 令和 3 年度 予算編成の基本的な考え方

国は、「経済財政運営と改革の基本方針 2020」において、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の拡大により浮き彫りとなった課題やリスク、取り組みの遅れに対応するため、「新たな日常」を通じた「質」の高い経済社会の実現に向けた、「個人が輝き、誰もがどこでも豊かさを実現できる社会」、「誰ひとり取り残されることなく生きがいを感じることのできる包摂的な社会」、「国際社会から信用と尊敬を集め、不可欠とされる国」の3つが実現した社会を目指すとともに、感染症拡大を踏まえた経済・財政一体改革を推進するとしている。また、概算要求については、基本的に前年度同額とした上で、感染症への対応など緊要な経費については、別途、所要の要望を行うことができることとし、その際には、これまでの歳出改革の取組を強化するとともに、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化するとしている。

県における令和3年度当初予算編成に当たっては、次期行財政改革大綱に掲げる財政健全化の取組を実行しながら、感染症の今後を見据えた施策や、「とちぎ元気発信プラン」に続く次期プラン及び「とちぎ創生15戦略」に掲げる施策の積極的な推進を図るとともに、ウィズコロナ、ポストコロナ時代に求められる新しい行政のあり方についても検討し、的確に対応していくとしている。

令和3年度予算編成に当たっては、「第2次那珂川町総合振興計画後期基本計画」での各種施策や効果の達成に向けて着実に推進していくとともに、「那珂川町人口ビジョン」及び「那珂川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる基本目標や重要業績評価指標（KPI）を達成するほか、ウィズコロナ、ポストコロナ時代に求められる各事業を推進していくこととする。

このため、町の厳しい財政状況を踏まえ、事業の平準化に努めるとともに、創意工夫と柔軟な発想を持って、前例や既成概念にとらわれず、必要性、緊急性、費用対効果を検証しつつ、令和元年度決算の状況を踏まえ、更なる歳出の抑制に努め、新規事業や緊要な経費を除き、昨年度を下回る規模での予算編成を目指すこととした。